

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム 福寿草	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県宮崎市大字広原312番地1		
自己評価作成日	平成26年8月28日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;divosyoCd=4590100170-00&amp;PrfCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;divosyoCd=4590100170-00&amp;PrfCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福寿草は周囲を田畑に囲まれ、田園風景の中にあります。近くに219号線が通っているものの、そこから一步入れば、静かで昔を思い出させる風景です。近隣の方々、地区の方々、近くの高校の生徒さんも、皆さん笑顔で接して下さい。散歩時気軽に話しかけて下さい。そんな方々へ、お礼の意味を込めて、毎年夏祭り(納涼祭)を計画しています。今年も先月30日に夏祭り(納涼祭)を計画し、利用者様、ご家族の皆様含め、地区の方々、近隣の皆様、約120名の方々が集まって下さいました。ベリーダンス・ひよっこ踊り・舞踊・フラダンスなどの催しを一緒に楽しみました。そんな中で、利用者様の出来る力を温存しながら、今の生活、この瞬間を暖かく、楽しく過ごして頂けるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道から入った田園の中にあり、同敷地内に小規模多機能居宅介護事業所も併設しており、地域との関わりを積極的に行っている。特に、納涼祭などのホームの企画した行事には、地域の方々の参加はもとより、ボランティアの方や近くの高校の生徒なども多く参加し、利用者も一緒に楽しめる環境である。また、管理者及び職員間の関係性が良く、職員にとって働きやすい職場との印象も見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後、勤務職員全員で理念の唱和を行う。日中は、ホール内数ヶ所に貼った理念を確認しながら、介護を行い、実践している。理念をケアの中にどう反映していくか、職員と討議していきたい。	理念に関する研修を行い、全職員から案を挙げてもらい、討議をし、具体化した理念をつくり、実践につなげている。また、理念をホーム内に掲示し、職員が常に確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ホームの行事を地域の方々に お知らせし、参加を呼びかけて交流している福寿草たよりも、家族だけでなく、自治会の皆さんにもお渡ししている。運営推進委員会に参加された老人会・地区会の皆さんにも渡ししている。	地域の自治会に加入・ホーム便りを回覧し、ホームの行事や特色などを紹介している。ホーム主催の納涼会を企画し、住民の参加はもとより、近くの高校からの協力も得られ、地域との相互交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に参加された地区の皆様・老人会の皆様をはじめ、ボランティアの学生さんにも、認知症の方の理解・支援の方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。東北における震災をきっかけに、会議の中では避難方法を地域の人や家族と共に再確認し、避難場所を皆さんと考える事ができた。	会議では、ホームの運営状況の報告や地域の方からの意見などが出され、双方向的な会議となるよう配慮している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃、利用者についての相談をしたり、アドバイスをもらったりして、関わりを持っている。また、研修会にも積極的に参加している。	管理者は、市の担当課にホームの状況報告や介護保険制度面の相談をしたり、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、身体拘束についての弊害を理解し、寄り添うケアに努め、事故防止にも取り組んでいる。特に、言葉の拘束については、お互いの介護を通して、学びあっている。	身体拘束に関する弊害を理解しており、事故防止に努めている。また、研修会に参加し、身体拘束に関する事例発表も行い、積極的に身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、利用者との関わりを大切にし、尊厳を大切にされたケアに取り組み、家族・職員のストレスの有無に目を向けながら、防止に努めている。仕事として「介護の中の虐待とは」その防止策も含め、全員で考えている。			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修では必ず取り上げ、全職員で考え理解を深めている。学んだ上でそれらを活用できる方法はないか、支援を必要としている方はいないか、全員で話し合っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書・運営規程・重要事項説明書に基づき、時間をかけて説明を行っている。必要な方には、自宅に持って帰り、ゆっくりと読んで頂いている。また、不明な点・疑問点がある時も、時間をかけて説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には必ず声かけを行い、意見・要望がないかをお尋ねしている。また、家族会で出された意見は、反映出来るよう努めている。玄関に意見箱を設置し、皆さんからの意見も聞けるように置いてある。		来訪時に、家族の意見、意向を十分に聞き、利用者本位に運営に反映できるよう努めている。家族会もあり、運営推進会議の日程に合わせて開催され、運営推進会議でも意見が出せる環境である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うミーティングで、職員からの苑に対する意見を聞き、改善出来る事から改善している。		月1回の職員会議で、運営や行事など、職員の意見を大事に計画を作成している。日頃より、管理者と職員のコミュニケーションが十分図られており、勤務の中でも気軽に意見が出し合える風通しの良い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の個々の状況を常に把握し、大きな事はミーティングで話し、細かなことは個人的に話し合っ、その環境や条件を整えていけるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を研修に参加させるようにしており、学んだ事は、苑内の勉強会で発表・伝達している。研修したことは日々の介護の中で実践し、職員間で確認し合っている。また、介護実習生をうけいれており、実習生を通して職員を育てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの交流会に参加している。意欲を持って参加する職員も増え、他施設との情報交換は楽しみでもあり、本人にとっても貴重な経験になっている。			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初にご本人が一番困っている事を尋ねたり、聞いたりする時間を多く設け、不安や心配事・悩みを聞き、その事を解決するためにはどうすれば良いのか、どうして欲しいのかを一緒に考え、ご本人が安心して利用出来るように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初めに家族から現状・実態をお聞きする時間を多く取り、家族が求めている事やサービスを聞いていく。家族の思いに寄り添いながら、何を望まれているのか確認しながら、より良い関係を築いていく。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が望まれている事に全員で取り組み、必要としている支援や介護を見極める。時間経過と共に、その支援や介護がより望まれる状態に近づいていくように努める。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、職員と一緒に出来る事をふやし、一緒に日々の生活を送っている事を感じて頂く、お互いなくてはならない存在だと思ってくれるように務める。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況報告を、苑だよりを通して常に行っており、家族の方にも利用者様の”今”を知って頂き、一緒に支えて頂く。家族が出来る事は家族にも協力して頂き、利用者様を中心とした、共に支え合う関係に努める。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知り合いの方が訪ねて来られたら、皆さんで楽しく過ごせるように支援し、帰られる時は、また来て下さるよう声かけをしている。行きたい場所は家族と相談の上、協力して出かけられるように努めている。	家族の支援の下、自宅での生活状況を把握している。お墓参りや買い物、外食など、個々の状況に合わせ、家族とも連携し、なじみの場所への外出など、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係がより膨らむよう、穏やかに対応している。また、全員が参加出来るような行事(各人の誕生会・夏祭り・運動会・クリスマス等)を計画し、取り組んでいる。利用者様同士の会話にも耳を傾け、要望等、寄り添える事があれば寄り添っている。			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られた時は、医療との情報交換や状況把握を行い、交流に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりに担当を決め、利用者様の現状把握に努めている。また、家族や関係者の情報を取り入れ、利用者様の思いをより深く把握する事に努めている。	日々の利用者の表情や行動から、意向の把握に努めている。また、利用者様の情報を本人や家族から聞き取り、少しでも思いや意向に沿えるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様より、入居時までの生活歴・職歴・生活環境・趣味などの情報を集めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時、日々の記録・業務日誌は必ず目を通し、更に重要な事は申し送り時に口頭で確認しながら伝え、利用者様の現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は、ご本人・ご家族の希望に添えるように、ケアマネージャー・担当職員が中心になり、その他の職員と一緒に作成する。毎月、担当職員はモニタリングを行い、評価表を書き、ご本人やご家族の要望に沿ったプランを作成している。	介護支援専門員・担当者が中心となり、全職員で話し合い、介護計画を作成している。また、日々記録する個別の記録用紙に目標を記載し、職員の気づきや利用者様の状況を具体的に記録できるよう工夫している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけでなく、その日気づいた事・職員間で気になった事・感じた事も記録しながら、ケアプランに基づいて介護を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診等で家族が対応できない時は、職員が付き添いを行ったり、また、買い物等で利用者様が望まれる事にできるだけ寄り添っている。			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の高校より、生徒のボランティアを受け入れており、利用者様との交流を図っている。また、緑のふれあいが出来るよう、ビニールハウスで野菜作りに参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各人それぞれのかかりつけ医が、その状態に応じて往診して頂いている。その他、歯科医院・整形外科・皮膚科も往診して下さる。家族の都合により受診ができない時は、職員が対応し、適切な医療を受けられるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、利用者様に変化が見られた時は看護師にすぐに連絡でき、適切な対応が取れる。また、訪問看護とも24時間連絡が摂れる状態であり、急変時にも対応できる。手当にしても、相談や指導もして下さるので安心して介護ができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、その状況確認を取るよう努めている。また、病院の看護師と連絡を取りながら、情報確認に努め、家族と相談しながら早期退院できるように話し合っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期についても十分な説明を行い、本人・家族の思いをしっかりと受け止め、同意書を頂くようにしている。終末期に向けた職員の教育も行っている。		看取りの指針を作り上げ、利用開始時に終末期のあり方について、利用者本人、家族、関係職員で話し合っている。また、看取りの経験もあり、終末期に向け、かかりつけ医や訪問看護などと連携した取組が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者様の急変時のマニュアルを作成し、災害時の訓練も行っている。応急手当、初期対応などの研修にも参加し、救急救護法の受講も計画している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回、防災、通報訓練を実施している。地域消防団への協力も打診している			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様を一人の大切な人間として尊敬し、対応している。また、人生の大先輩としての誇りやプライバシーを守って介護している。守秘義務について理解し、対応している。	職員による声かけやケア時の態度などを、職員同士で注意しあえる雰囲気作りがなされている。利用者を人生の先輩ととらえ、人格の尊重やプライバシーの確保に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の希望を尋ね、出来ることは実現に向けて努力している。食べたい物(嗜好物)、着たい服(好み)は言うまでもなく、その方の思いや気持ちに寄り添い、日に何度も散歩に出かける事もある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調を考えながら、その日・その場の雰囲気を把握する。その上でレクリエーションを選択し、全員が楽しめるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、その方の好みの服を自分で選び、着て頂いている。お化粧も外出時と限らず、行事に合わせて口紅をつけたり、頬紅をしたりと楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、毎食楽しみにしておられる。盛り付けをされたり、片付け・茶碗洗いなど、ふと昔の自分を思い出されるのか、笑顔になられる。毎日曜日は、職員と調理をたのしんでいる。	全職員が、利用者と同じテーブルで同じ食事をとっている。また、御膳を拭いたり、食器を洗ってもらうなど、利用者の持てる機能に働きかけて支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を必ずチェックし、記録している。嚥下状態やむせこみを考慮して、普通食、一口大、刻みミキサー食と、それぞれ食べやすい状態にして食べて頂いている。水分も、トロミなどを利用して摂取しやすいようにして飲んで頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導、実施を行っている。定期的に歯科往診があり、清潔保持、異常の早期発見に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄状況・パターンの把握をしている。排泄時は、その人にあった声かけを行っている。夜間オムツ使用の方でも、昼間は、はくぱんつを使用し、トイレで排泄を行っている。	トイレで排せつができるよう、排せつチェック表を基に、一人ひとりの排せつパターンを把握し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄サイクルを知り、良い環境で排泄が出来るように努めている。食事で食物繊維が摂れるように工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行い、バイタルチェックを行った上で入浴して頂いている。本人の体調によっては看護師と連携を取り、入浴をすすめたり、中止したりしている。	利用者、家族の希望に沿い、毎日、入浴を楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせ、状態を見ながら休息を促している。昼夜逆転や不眠傾向が見られる方には、昼間の散歩や軽い運動を増やすように努めている。布団干しやシーツ交換を行い、気持ちよく休まれるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理ファイルを作成し、一人ひとりの内服を管理している。また、体調の変化や薬の変更があった時は看護師と連携を取り、指示を仰いでいる。業務日誌にも記入し、職員にも伝えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人の出来る事・好きな事を考慮し、洗濯物を干したり、取り入れたり、たたんだり、また、調理・配膳・盛りつけ・片付けなど、出来る事をして頂いている。された後いつのコーヒーで疲れをとって頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から行きたい場所を尋ね、家族に協力して頂きながら、外出を実施している。春の花見・秋の遠足など、その時々に応じてドライブを行い、野山の彩、季節の移ろいを感じて頂いている。	外出の年間計画を立て、季節の花見やドライブ等の外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	福寿草 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、ご家族と相談して持って頂いています。時には、職員と一緒に好きな物を買に行かれます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されれば、電話の介助・支援を行っています。手紙もご家族・友人・お知り合いの方々からの手紙の代筆から代読まで、職員が支援を行っています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に空気清浄機を作動し、温度・湿度に気をつけている。また、季節季節の花を玄関横の花壇に植え、季節を感じて頂く工夫をしている。時には天窓を開け、自然の風や光を感じて頂く事も多々ある。		共用の空間は掃除が行き届き、清潔に保たれている。利用者の集うリビングは、テレビ、ソファ、畳のスペースもあり、訪れる人や家族もくつろげるよう配慮がなされている。季節の花や利用者の作品が飾られ、季節を感じられるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの個々の椅子の他に、テレビ前にソファを置き、友人・知人同士ゆっくり話ができるスペースがある。また、ホールの横には畳も敷いてあり、その上で足を伸ばしておられる方もみられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具・仏壇を持って来られ、居心地よくその人らしく過ごせるように工夫されている。また、可愛い家族の写真を貼ったりして、自分好みに工夫されている。		利用者の使い慣れたたんす、家族の写真、お位はいなどが持ちこまれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動しやすいように、壁・廊下には手すりを設置し、トイレ・風呂場にも手すり・介助バーを設置し、安全・安楽に排泄や入浴ができるように配慮し、自立に繋げている。			